

伊方原発プルサーマルについて 20060308 総務防災局

1. 伊方原発のプルサーマル計画の本県への影響についてお尋ねします。先日四国の共産党の代表が、愛媛県にたいして計画の撤回を申し入れました。私も参加しました。いま計画の進行状況はどういう段階か教えて下さい。

(回答)

2. とにかく心配なのは、事故や災害やテロで、放射能汚染が広がることです。これまで世界の大きな事故と言え、1957年の英国のウィンズケール、1979年3月28日のアメリカのスリーマイル、1986年の旧ソ連のチェルノブイリの事故です。
3. 伊方原発を中心にチェルノブイリの事故で、旧ソ連が「高濃度汚染地域」とした272キロ圏内を地図に落とすと、このようになります
4. 事故については、日本の原発と旧ソ連の原発は仕組みが違うといいますが、同じように比較はできないという主張について、勉強できていないのでまだよくわかりませんが、それにしても、これまで安全だと言われていた国内の施設でもいろいろな事故がおこっているだけに、電力会社の主張を丸呑みにして、深刻な事故がおこらないとは言えないように思います。はっきり言って不安を感じる。
5. 最近でも、伊方には77年、82年、94年に作られた3基の原子炉があるが、炉の老化が目立つものもあるようで、最近でも昨年11月9日に2号機の原子炉容器入口管台に深刻な傷が見つかったそうです。おなじことが、1年前に1号機でも見つかったそうです。さらに12月20日には、同じく2号機の安全注入系の拝観亀裂が貫通して、放射能を含んだ一次系水が漏れるトラブルが起こったそうです。
6. どうも中性子があたるために新しいタイプの「照射型の応力腐食割れ」があったのではないかとされています。
7. そういう原発で、プルトニウムとウランを混ぜたMOX燃料を燃やすプルサーマルが実施されようとしているが、これをやると第一に、制御棒の効きが悪くなるとか、第二に使用済み燃料の行き先がないとも言われている。
8. さらに、伊方原発の沖6キロにある活断層は、2000年周期の活動期になる。この2月1日には、まさにこの図のように原発の目と鼻の先でマグニチュード4.9の地震が起きている。
昨年8月16日の宮城沖で発生したマグニチュード7.2の地震が、東北電力女川1号機の原子炉建屋基礎部分で想定地震動を越える加速度が観測されたといわれます。想定を上回る地震に原発が襲われる危険は小さくないと思う。
9. 万一老朽化で痛んでいるところへ、想定を上回る地震がきたらどうなるか。いわゆる過酷事故がおこらない保証はないのではないかと。そうすると、本県へも影響が及ばないとはいえないかもしれない。そこでお尋ねしたい。伊方原発へのプルサーマル計画について、愛媛県のことだからと任せきりにするのではなくて、県として十分資料を

集め、愛媛県にたいしても安易にゴーサインを出すことがないよう、慎重な取り組みを知事会などの機会も捉えて、要請すべきではないか。

(回答)・・・担当がないということで回答なし